

人権学習展開例

第2・3学年

- 主題名 共生社会の実現に向けた合理的配慮
- 教材名 視覚障害者・聴覚障害者への合理的配慮はどうすればいい?
- 人権学習の視点 個別的な視点「障害のある人の人権問題」
- 主題・教材について

障害者の権利擁護に向けた取組は国際的に進展しており、平成18(2006)年には国連総会で「障害者権利条約」が採択された。日本はその翌年に署名し、以後「障害者差別解消法」など国内法が整備され、様々な取組が進んでいる。しかし、日常生活の様々な場面において、まだまだ障害のある人の行動が制限されている現状がある。

本教材は、視覚障害者及び聴覚障害者の生活上のバリアについて考えることを通して、「障害者権利条約」における「障害の社会モデル」について理解するとともに、学校における具体的な合理的配慮の事例について知り、共生社会の実現に向けて社会のあるべき姿と、一人一人が取るべき行動について考えさせたい。

●ねらい

「障害の社会モデル」の考え方及び「合理的配慮」の在り方について理解させ、障害のある人が自身の力を活かし日常的な生活を送るために必要な配慮を考え、実現しようとする意欲・態度を身につけさせる。

●関連する教材

- 人権学習資料集<小学校編Ⅱ> 「8 どんなことができるかな」(第3・4学年用)
- 人権学習資料集<小学校編Ⅲ> 「11 コミュニケーションしてみよう」(第5・6学年用)
- 人権学習資料集<小学校編Ⅳ> 「10 バリアフリーについて考えよう」(第6学年用)
- 人権学習資料集<中学校編> 「18 ノーマライゼーションの実現に向けて」(第2学年用)
- 人権学習資料集<中学校編Ⅱ> 「7 困っている人に声をかけよう」(第1学年用)

●本時の展開

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
導入	点字や手話・指文字を体験し、視覚障害者や聴覚障害者にとって大切な言語であることに気付こう。				
	○視覚障害者や聴覚障害者のコミュニケーションの方法について体験、理解させる。 ○本時の学習課題を知らせる。	個別 グループ 一斉	○点字表、指文字表を用い、ワークシート①の点字と指文字を読み取ってみる。 ○点字表を見ながら自分の名前を書き表す。また、指文字表を見て自分の名前を自分の手で指文字を使って表す。 ○本時の学習課題を知る。	○お互いの名前などを指文字で表しながら交流させる。 ○点字や手話が視覚・聴覚障害者にとって大切な言語であることを確認させる。	ワークシート①
展開	障害があることの困難さと不安な状況を理解し、必要な配慮をすることの大切さに気付こう。				
○普段何気なく目にしてはいるものから、障害のある人が直面するバリアについて気付かせる。	一斉	○ワークシート②の1の文章の文字を読み、気付いたことを発表する。 ○視覚障害者・聴覚障害者が普段接している情報はどのようなものなのか考える。	○字幕・音声のない映像を見せるのもよい。 ○多くの情報は、受信者が「見える」「聞こえる」ことを前提としたものであることに気付かせる。	ワークシート②	

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
展 開	○「障害の社会モデル」について理解させる。	一斉 個別	○「障害の社会モデル」について説明を聞く。 ○「障害の社会モデル」の考え方をまとめて、ワークシート②の2に記入する。	○指導者用資料を参照する。 ○障害とは、本人の医学的な心身の機能の障害だけを指すのではなく、社会における様々な障壁（社会的障壁）との相互作用によって生じるものであることに気付かせたい。	
	○講演会の事例について考えさせる。	グループ	○ワークシート②の3「考えよう」を読み、意見を交流する。	○合理的配慮は「特別」ではなく、「当たり前」の権利を保障するために必要な配慮であることを理解させる。	
	○学校における合理的配慮について理解させる。	グループ	○視覚障害・聴覚障害のある生徒に対する学校における合理的配慮について、どのようなものがあり、具体的にどのような配慮ができるのかを考え、交流する。	○学級に該当する生徒がいる場合は、事前に本人・保護者と相談しておく。 ○必要な配慮によって、その人が持っている能力を發揮できるということを押さえる。	
		一斉	○話し合ったことを発表し合い、考えを深め合う。	○各グループに発表させ、学校でできる合理的配慮の例を確認し、それを行うためには周囲のサポートも必要であることを確認する。	
障害の「社会モデル」の考え方を踏まえ、共生社会の実現を目指そう。					
まとめ	○本時の学習を振り返らせ、共生社会を実現するために必要なことを確認させる。	一斉	○本時の学習を振り返り、学習のまとめをする。	○「障害の社会モデル」の考え方を踏まえ、一人一人が共生社会を実現していく主体者であることを意識付ける。 ○多くの社会的障壁が取り除かれていることを説明し、引き続き、合理的配慮の提供や環境の整備に取り組むことが大切であることを確認してしめくくる。	

●評価

「障害の社会モデル」の考え方及び合理的配慮の在り方について理解し、障害のある人が自身の力を活かし日常的な生活を送るために必要な配慮を考え、実現しようとしているか。

<指導上の留意点>

実施にあたっては、日頃から学級経営の一環として、多様な個性があることを認め合い、友達と協力したり、困っているときに助けたりすることを大切にする学級の土壌づくりも大切なポイントになります。

<ワークシート①の答え>

点字の読み取り

①りか ②こくご ③れきし

指文字の読み取り

④きょうは ⑤いいてんき ⑥きもちがいい